

令和3年度 グループホームすみれ 事業方針並びに事業計画

目標 地域密着型施設として利用者に家庭的な環境を提供し、地域住民との交流を通して、地域の困りごとに少しでもお役に立てることができるようなグループホームとなる。

昨年度は新型コロナの影響で、面会や外出の制限のある生活を余儀なくされ、普段の日常とは違う緊張感の中での一年であった。今年度は、5月にワクチン接種も行われるため、感染対策を継続しながら少しでも生活の楽しみの幅を広げられるように活動を行っていく。

昨年度は、「ランチの旅」はできなかったが、店舗に寄らず、ドライブ等の地域訪問も兼ね、楽しみ作りと地域交流の機会を作りたい。

運営方針

- ①個々の入居者のニーズをくみ取りケアプランに反映させ、各入居者の求める自分らしい生活を実現する。また、入居者の持っている力を大切にし、可能性を最大限生かせる支援を行う。
- ②入居者がいつまでも住み慣れたホームでなじみの生活が継続できるよう、健康管理や日々の些細な変化に留意し、必要時には主治医、ご家族と密に連携を取る。
- ③管理栄養士の助言を受け、健康的で美味しい食事を提供する。また、入居者の経験を生かした昔なじみの料理を共に作り、役割づくりや自尊心の向上につなげる。
- ④サービスの質の確保のため、自己サービス評価を行う。評価により改善点を明確にし、ケア向上を促す教育に役立て、入居者・家族の安心と満足につなげていく。
- ⑤「グループホームすみれ家族会」の運営を支援し、入居者、家族の要望把握に努め、必要な改善を行う。また、家族との信頼関係を築けるよう報告や連絡を密に行う。
- ⑥地域密着型サービスとして、町行政や地域包括支援センターとの協力・連携を図る。
また、地域推進会議や地域行事に共に参加し、地域住民とのつながりを大切にし、地域からも必要とされる事業所作りを目指す。
- ⑦近年多発している自然災害や防火安全災害対策を行い、防災計画の元、防災訓練を行う。入居者の安全を第一にし、備蓄品の管理も随時行う。
- ⑧日頃から、ヒヤリハット等の事例を通し、事故の未然防止策を取る。リスクの根本原因を究明し、リスク除去を行い、入居者が安全に事故なく過ごせる環境を作る。随時、取り組みの評価と見直しを行い、緊張感を持って業務に当たる。
- ⑨感染症の予防対策に重点を置く。新型コロナウイルスが流行しているため、収束がみられるまでは万全の態勢で入居者、職員の健康維持に努める。また、流通の停止、職員の休みによる人員不足も考えられるため、あらかじめ計画、準備を行っておく。
- ⑩スタッフ一人一人が、自覚と自信を持って業務に当たれるよう、コミュニケーションを密にし、些細な気付きや意見が言いやすい環境を目指す。
- ⑪コロナ禍においても、楽しみや変化のある生活を過ごせるよう、食事やおやつ時の環境を変えるなど工夫を行い入居者が気分転換を図れるよう支援する。